

私欲植物 Selfish Plants

光の飼い方

植物はこれまでも、人間の助けを借りたり、利用しながらあらゆる環境や気候に適応し、多様に進化してきた。太陽光発電も、人が手を差し伸べれば、今までは役に立たないとされてきた場面でも活用できるのではないか。その発想から、利便性だけを考えると決して生まれることのないような、人の助けを前提として光る、植物のような照明群を考えた。

How to Keep Lights

Plants have evolved to have various mechanisms adapting to changing weather conditions and environments with the help and use of us humans. I thought solar power could also be used in situations that are normally considered useless, if people give it a hand. With this idea in mind, I came up with a group of plant-like lights that only shine with the help of people, which would never be born if we only thought of convenience.

1. 雨を待つ光：植物は日光や雨、風などどんな天気も上手く利用している。日光がないと使い物にならないとされる太陽光照明が、雨が降って初めて光る、という特殊な進化をしたらそれはどんな形をしているだろうか。
2. 人に付いていく光：自分の住む場所には日光が当たらなくても、一歩外に出れば問題なく光を得られるかもしれない。ひっつき虫のように、人間の行動範囲についていき、行き先の窓に張り付いて光を得る。
3. 首を長く伸ばす光：屋根などによって遮られ、ベランダや庭にまで光が届かないことも多い。つる植物のように、巻き付く構造を使って光が当たる場所まで首を精一杯伸ばす。

詳しくは→ ryotamizoguchi.com